



ぜんぼうこうえんぶん ぜんぼう まえ うし 前方後円墳のどちらが前・後ろなの

もじ あらわ ぜんぼう まえ うし 文字が表している、前と後ろ

ぜんぼうこうえんぶん もじ ぜんぼう まえ ほうけい しかくけい いみ こうえん
前方後円墳の文字を、よく見てください。「前方」は前が方形(四角形)の意味、「後円」
うし えんけい いみ まえ しかくけい うし えんけい こぶん ぜんぼうこうえんぶん
は後ろが円形の意味です。つまり、「前が四角形、後ろが円形の古墳」を、前方後円墳と、
よんでいるわけです。しかし、ぜんぼうこうえんぶん なまえ ほんとう まえ
前方後円墳という名前は、本当は、どちらが前なのか、わか
らないままに、つけられたのです。

さいしよ ぜんぼうこうえん 最初は、とりあえず「前方後円」ということにした

え どじだい がくしゃ がもうくんべい えんけい ぶぶん ぎっしゃ やね しかくけい ぶぶん ぎっしゃ
江戸時代の学者、蒲生君平は、円形の部分を牛車の屋根、四角形の部分をながえ(牛車の
まえ ほん だ うし くるま ぼう ぜんぼうこうえん
前に二本つき出した、牛と車をつなぐ棒)のようである、として、「前方後円」というこ
とばであらわ さいご しかくけい ぶぶん まえ えんけい ぶぶん うし
とばで表しました。それ以後、とりあえず、四角形の部分が前、円形の部分が後ろという
ことになりました。

いま まえ 今は、どちらを前としているか

きんねん ちょうさ けんきゆう けっか えんけい ぶぶん ししや ばしよ しかくけい ぶぶん
近年の調査・研究の結果、円形の部分は、死者をほうむった場所であること、四角形の部分
は、もともと、えんけい ぶぶん い つうろ こぶん さい
は、もともと、円形の部分へ行くための通路だったところで、のちに、古墳の祭だんにあた
る場所となった、という説が、せつ ゆうりよく せつ がもうくんべい しかくけい
ぶぶん まえ えんけい ぶぶん うし ただ
部分を前、円形の部分を後ろとしたのは、正しかったこととなります。

(監修・田代 脩)

